



3学期 始業式の話

静かで寒かった学校に、皆さんの明るい声が戻ってきました。今日は、3学期の始まりを告げる始業式です。だれ一人、事故や事件に遭うことなく、元気で学校に戻ってきました。

今日から学年最後の3学期が始まります。3学期は皆さんが、今まで学んできたことを締めくくるとまとめの学期です。6年生は、この学期が終わるといよいよ卒業式を迎え、この中牟田小学校を後にして中学校に進みます。

また他の学年の人たちもそれぞれ上の学年に進級します。この学期を、しっかりと学習して、新しい学年に進む土台作りをして下さい。

3学期は、1学期や2学期に比べるととても短いです。1月は、あっという間に終わってしまうし、2月は一番短い月です。油断していると、すぐ3月になってしまいます。最後まで気を抜かないで頑張りましょう。

そこで、今日は、萩原朔太郎さんの竹という詩を紹介します。

かたき地面に竹が生え、
地上にするどく竹が生え、
まつしぐらに竹が生え、
凍れる節節りんと、
青空のもとに竹が生え、
竹、竹、竹が生え



冬



春

この詩は、竹は、冬の寒さにたえぐつと耐え、やがてその生きる力が大地を貫き、真っ直ぐに空に向かって伸びる、「冬に耐える」強さを表しています。生きるということ、伸びるということは、いくつかの冬の時期をぐつとこらえて、耐えて、闘い、その中であふれるばかりの力を生み出していくのかもしれない。

このように、冬という言葉には、増えるや貯めるという意味があります。植物は、見えないけれど、冬の間にエネルギーを増やす努力をしています。冬の間に、エネルギーがどんどん増えてくると、体の中にエネルギーが貯まり、体が張ってきます。そして、春になると、立派な大きく綺麗な花を咲かせます。

大切なことは、4月になれば進級することだけではなく、春に見事な花が咲く植物のように、今の学年のエネルギーを体一杯に蓄えて、準備をしておくことです。

3学期は、これまで以上に1日1日を大切に、1学期、2学期のように「自分で考えて行動できる」という気持ちをしっかりと持ち「これだけは頑張って伸びたよ」という自信を持って次の学年へ、また、中学校へ進んで欲しいと思います。